

河川整備課 敬

201

昭和初期の上流域開発 市権、有野宮、藤原、鹿の子台
西宮山日町一帯 三田市を範囲一帯の規模開発。
に伴う許可時の審査新制度の無責任の
帳付の結果たらう 環境変化による地球温
の上昇は近年中に雨水の増加も想定予測され
た筈だ 当時、時雨の降水量が40mmが20年
後に倍増する仮定が我々のころとぞ判断
出来た 野放牧帯の乱開発も許可に符
合 開発後の降雨の浸透、増加による水
量の増加、これを受ける河川容量、流速等々
すべて急っていた、など親近感が持たなか
ったのか、私の記憶では58年、激甚降雨
で、我が家床下浸水した、当時河川の調査
もなかった、20年後のH16年10月 同程度と思
える降雨量と思えたが、果に相違 我が家床
下の土の土被層となった、おいて因果、原因と
結果を、本気で調べたが戸数6戸の小流域、
向井隣保の6戸のお隣3戸が土被層 全壊
こそ免れたが、土被層だった、故に原因を私なりに
に調査してその結果を、市界の河川課に郵
便でと送った、河川市課サ、容量と水流速を
算定し、水流防壁を分も精査すれば水位の
上昇の原因が判明する、河川は直線ではない
降雨量の従い、流量、流速が変化 停滞すれば

水位が急上昇する、その原因が極ず、急激な
 土砂の流出から入る事による、排水処理を後述して
 いた結果だ(口から入れた物は必ず尻から出るものだ)
 一方を急れば、均衡が乱れる 理の当然だ
 川中、川下、川上、三流全段 容量を算定の上、防管箇所
 を除去 整備 浚渫 浚渫に水の流れの容易化を計る事
 が急肝要ではないか 積集の仕末より、野の整備が
 市に 果た、予算が云々 繁々、勝手な理曲の明
 けられている現状、兵庫にて産るべきだ、又下流
 市と一体になって、兵庫の整備を急ぐべきだ
 下流の川に於ても、百年を過れば、不安が伴う、治水
 治水、云々 市、市、補修費用を算定、市、神戸
 市も兵庫も市、市民の水難だ だを新設
 する訳ではない、補修の為の予算 政府にも要求
 求、早期に増設補修を施すべきだと思ふ
 これが市民の知恵だと言じて下る 100年を
 過すれば、崩壊の心配もすべき、時期が到来して
 いるのと違ふ事だ、一区域の心配がすよ
 治水場下流 約150m位置 右岸のつり橋上部
 の岩丘標を失う 取り除く 方途を急ぐと要望に
 応ふ 意向を申し付けます。

11月18日 12月10日 農林環境政策センターの意見交換会に市、市、
 出席出来た人、文書、意見を申し付けます。